ポーラ
「女性からだ会議大賞2020」にて優秀賞を受賞

ポーラは、一般社団法人シンクパール（所在地＝千代田区、難波美智代代表理事）が女性の健康や予防医療、がん対策に取り組む活動や団体から選出している「女性からだ会議大賞2020」にて、優秀賞を受賞した。

選考においては、ポーラが社員とビジネスパートナーを対象に実施する「がん共生プログラム」で、「がんに対する理解を深める」「安心してがんと向き合う」「経験を大切に学ぶ」という3つのテーマをもとに、がんに罹患しても自分らしく働くことができるサポート体制がある点などが有識者に評価された。

同社では、従業員とその家族、ビジネスパートナーである約4・1万名のビューティーディレクターに向けた「がん共生プログラム」を2018年4月より開始した。

がん共生プログラムでは、「がんに対する理解を深める」「安心してがんと向き合う」「経験を大切に学ぶ」の3本柱で構成されており、がんと共に生きることが身近なことと理解し、がんと共に生きるために大切なことを深く学んでいくことや、安心して治療や看護に専念できるよう、心のケアや不安要素の低減をサポートすること、がんと向き合った経験そのものが貴重なものと捉え、会社全体が理解し、その経験を共有しあえる風土を醸成することなどに注力している。

資生堂
令和元年度「準なでしこ」に選定

資生堂は、経済産業省と東京証券取引所が共同で実施する「なでしこ銘柄」の選定において、令和元年度「準なでしこ」に選ばれた。

同社は、企業理念を実現し続けていくため、性別や年齢、国籍に関係なく、個々人の違いを互いに認め尊重し合い、新しい価値創造に向けて議論する風土醸成を推進している。女性活躍に向け2005年から男女共同参画行動計画を策定して取り組んでおり、女性管理職比率はグループ全体で54・8％、日本国内で32・3％、取締役・監査役の女性役員比率は45・4％となっている。

また、日本企業の役員に占める女性比率の向上を目指す「30％Club Japan」の初代会長に同社の魚谷雅彦社長兼CEOが就任し、企業の枠を超えたジェンダーギャップ解消に貢献するなど、今後も社内外でダイバーシティの実現に向けた取り組みを強化していく方針を打ち出している。

NADESHIKO semi 2020

私の H＆B 日記
姿勢矯正

パソコンを使った日々のデスクワークは猫背になりやすく、無意識に肩が内側に入って前かがみのような姿勢になる。筆者も猫背で、肩を回せばゴリゴリと音が鳴るほど肩こりが悪化し、腰痛にも悩まされていた。

このような肩こりや腰痛の根本原因である猫背を矯正するため、坐骨で座り、骨盤を立てた理想的な姿勢を保つ姿勢矯正の椅子「アーユル・チェアー」を先日購入した。

店舗を訪れると、専任のチェアーアドバイザーがマンツーマンで現在の座り方の問題点や骨盤の歪みについて、カウンセリングを行ってくれた。骨盤の歪みをチェックする診断では、まず始めに薄い座布団のような測定機器が設置された一般的な椅子に普段通り座ってみた。すると、左側のお尻に重心が傾き、骨盤が歪んでいる様子が一目でわかった。

今度は、アーユル・チェアーに測定機器を設置し、そこへ座ってみると骨盤のバランスが左右均等で、さらに自然と胸を張るような姿勢になり、姿勢矯正椅子の凄さを実感した。

チェアーアドバイザーは単に椅子のことだけでなく、机と椅子との関係性に至るまで色々と助言してくれた。

パソコン作業に適した机の高さは80㎝ぐらいが良いそうだが、一般的なオフィス用の机は高さが70㎝台で、筆者が使っている机もこれに該当する。折角、アーユル・チェアーで姿勢を矯正しても、70㎝台の机でパソコンを操作すれば画面を覗き込む姿勢となり、猫背になってしまう。

それを防ぐ方法としては、傾斜角度が10度の机上台を机に設置することで目線の位置が高くなり、机の直置きに比べると背筋が伸びやすくなる。

最後に、外出先などで一般的な椅子を使う場面で姿勢を正しく保つ簡単な方法もアドバイスしてもらった。背もたれを使わず椅子の端に座る端坐位を意識し、机があればお腹をくっつけるように座ると姿勢が自然と良くなるという。健康な体づくりのためにも、今後は座る姿勢に意識を高めていきたい。（之）

桃谷順天館
「にきびとり美顔水」が化学遺産に認定

桃谷順天館グループでは、日本初の西洋医学処方による化粧水「にきびとり美顔水」の容器3点（1885年発売当時のもの）が日本の化学および化学技術にとって歴史的に貴重な史料として、公益社団法人日本化学会が主催する2019年度「日本化学会化学遺産」に認定された。

日本化学会化学遺産
認定証
株式会社桃谷順天館　殿
貴下ご所有の「日本初の西洋医学処方による化粧品『美顔水』」は日本の化学および化学技術にとって歴史的に貴重な資料であるため日本化学会化学遺産に認定します
2020年3月23日
公益社団法人　日本化学会
会長　川合　眞紀
記
美顔水容器3点（1885年発売当時のもの）

創業者である桃谷政次郎氏（1863～1930年）は、約400年前の慶長の時代から紀伊國粉河（現・和歌山県紀の川市粉河）で代々薬種商「正木屋」を営んでいた家系に生まれ、和歌山県立薬舗学校に学んだ後、紀州初の薬剤師となり創薬に励んだ。

明治になり、西洋医学・薬学が重視されるようになったため、西洋医学者として高名だった東京帝国大学 桜井郁二郎教授を訪ねて最新の製薬技術を学び、その指導の下、にきびに悩む妻のために、日本で初めて西洋医学を取り入れた処方で「にきびとり美顔水」を開発した。帰郷後、「にきびとり美顔水」を使用した妻の肌がみるみるうちに美しくなり、その効能は地元で評判を呼ぶ。

1885（明治18）年に販売を開始すると、全国にその名を馳せるほどのヒット商品となり、やがて海を越え、海外での販路も拡大させていった。その「にきびとり美顔水」は、現在に至るまで処方を一切変えず、にきびに悩む人々に寄り添い続けている。

今回、化粧品工業の方向を決めた最初の画期的な製品であり、日本の化学技術にとって歴史的に貴重な史料であることから日本化学会化学遺産に認定された。